

# 広島県感染症発生動向月報

[ 広島県感染症予防研究調査会 ]

(平成30年7月解析分)

## 1 今月のトピックス

### (1) 蚊が媒介する感染症に注意しましょう ～デング熱～



デング熱 厚生労働省

検索

蚊の多い季節がやってきました。

蚊が媒介する感染症の一つであるデング熱は、海外で感染後帰国し、国内で発症した患者が、毎年、全国で200例程度、広島県でも数例報告されています。

デング熱の原因となるウイルスは発症した人の血を吸った蚊（日本ではヒトスジシマカ）の体内で増え、その蚊が他の人の血を吸うことで感染を拡げていきます。

今後、輸入感染例を起点に、県内で、いつ感染が拡がるかわかりません。蚊が媒介する感染症の県内流行を防止するため、普段からの対策をお願いします。



症状等	発熱や関節の痛み、発疹といった症状が1週間ほど続きます。出血を伴うデング出血熱となり、重症化することもあります。
予防方法	<p>【蚊に刺されないようにしましょう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中、蚊の多い場所に行くときには、長袖、長ズボン等を着用し、肌の露出を避ける。</li> <li>・虫除け剤を使用する。</li> </ul> <p>【蚊の発生を防ぎましょう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨水がたまった容器の水をなくす。</li> <li>・やぶ、草むらは刈取り、日当たりと風通しを良くする。</li> </ul>
その他	帰国後に発症した場合は、速やかにお近くの医療機関を受診してください。受診の際は、医師に、渡航先や渡航期間、渡航先での活動などについて詳しく伝えてください。



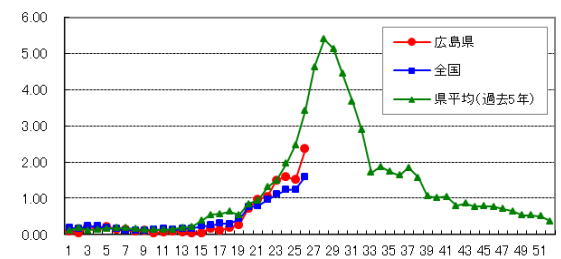
※イラスト出典「政府広報オンライン」

### (2) これからの時期に注意すべき感染症 ～手足口病～

手足口病は、例年、乳児・幼児を中心に、夏季に流行が見られるウイルス性の感染症です。

九州地方や山口県では、定点医療機関からの報告患者数が、国立感染症研究所感染症疫学センターの示す警報開始基準値を超え流行が拡大しており、広島県でも、今後の流行に注意が必要です。

定点医療機関当たりの報告患者数 (H30 広島県)



症状等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～5日の潜伏期を経て、口の中、手のひら、足の裏などに2～3mmの水疱性発疹が現れます。</li> <li>・通常、発熱は比較的軽く、高熱が続くことはありません。</li> <li>・ただし、まれに髄膜炎、脳炎などの中枢神経系合併症を伴うことがあるため、高熱、頭痛、嘔吐などの症状が見られた場合には、早めに、かかりつけ医を受診してください。</li> </ul>
感染経路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛沫感染、接触感染、経口感染</li> </ul>
予防方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いの励行が基本となります。</li> <li>・特に、おむつ交換をするときには、排泄物を適切に処理し、しっかり手洗いをしてください。</li> <li>・タオルの共用は避けましょう。</li> <li>・有効なワクチンはありません。</li> </ul>



## 2 疾患別定点情報 【速報値】

### (1) 定点把握(週報)五類感染症

平成30年6月分(平成30年6月4日～平成30年7月1日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	9	0.02	0.05	↓	10	ヘルパンギーナ	380	1.32	1.02	↑
2	RSウイルス感染症	97	0.34	0.08	↗	11	流行性耳下腺炎	37	0.13	0.64	→
3	咽頭結膜熱	244	0.85	1.08	→	12	急性出血性結膜炎	8	0.11	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	665	2.31	2.66	→	13	流行性角結膜炎	85	1.12	1.05	↘
5	感染性胃腸炎	1,663	5.77	5.92	↘	14	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
6	水痘	97	0.34	0.61	↗	15	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.03	
7	手足口病	502	1.74	2.42	↑	16	マイコプラズマ肺炎	3	0.04	0.19	
8	伝染性紅斑	5	0.02	0.24		17	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	113	0.39	0.55	↘	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	—	↓

### (2) 定点把握(月報)五類感染症

平成30年6月分(6月1日～6月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	57	2.48	2.27	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	49	2.33	3.50	↘
20	性器ヘルペスウイルス感染症	26	1.13	0.96	↑	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	0.19	0.39	
21	尖圭コンジローマ	18	0.78	0.74	↗	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.05	
22	淋菌感染症	13	0.57	0.76	↘						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

#### 発生記号(前月と比較)

<b>急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)</b>	急増減	↑	↓	1:2以上の増減
○急増疾患	増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
○急減疾患	微増減	↖	↙	1:1.1～1.5の増減
	横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患, 月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～11	12, 13	19～22	14～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

## 3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	31	結核(31)〔西部保健所(4), 西部東保健所(4), 東部保健所(6), 北部保健所(1), 広島市保健所(10), 呉市保健所(2), 福山市保健所(4)〕
三類	8	腸管出血性大腸菌感染症(8)〔北部保健所(2), 福山市保健所(6)〕
四類	27	A型肝炎(1)〔西部保健所(1)〕, レジオネラ症(22)〔西部保健所(3), 西部東保健所(4), 東部保健所(2), 北部保健所(2), 広島市保健所(8), 福山市保健所(3)〕, 日本紅斑熱(4)〔東部保健所(1), 広島市保健所(2), 福山市保健所(1)〕
五類	79	ウイルス性肝炎(E型, A型を除く)(1)〔東部保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(4)〔西部保健所(2), 呉市保健所(2)〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔福山市保健所(1)〕, 後天性免疫不全症候群(3)〔広島市(2), 福山市保健所(1)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(1)〔呉市保健所(1)〕, 水痘(入院例)(2)〔西部保健所(1), 広島市保健所(1)〕, 播種性クリプトコックス症(1)〔広島市保健所(1)〕, 梅毒(17)〔西部保健所(1), 東部保健所(1), 広島市保健所(13), 呉市保健所(2)〕, 百日咳(49)〔西部保健所(3), 西部東保健所(28), 東部保健所(1), 北部市保健所(3), 広島市保健所(7), 福山市保健所(7)〕